

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
壬生小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	1	1	1	1	1	6	3	9

(2) 兼務校の学級数

兼務校名	通常学級							特別支援学級	合計
八重小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		
学級数	1	2	1	1	1	1	7	2	9

兼務校名	通常学級							特別支援学級	合計
八重東小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		
学級数	1	1	1	1	1	1	6	2	8

兼務する場合の移動に要する時間(分/週当たり)	15 分
-------------------------	------

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	5	1	3	3	
理科	6	1	3	3	
理科	5	1	3	3	八重小学校
理科	6	1	3	3	八重小学校
理科	5	1	3	3	八重東小学校
理科	6	1	3	3	八重東小学校

授業時数 計 18 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 18 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
八重小 6年 1組 (担任: A)	A	A	A	A	推進	専科	専科	専科	A	専科	A	A	A
八重東小 6年 1組 (担任: B)	B	B	B	B	推進	B	専科	B	B	専科	B	B	B
壬生小 6年 1組 (担任: C)	C	C	専科	C	推進	C	C	専科	C	専科	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
八重小 5年 1組 (担任: D)	D	D	D	D	推進	D	専科	専科	D	専科	D	D	D
八重東小 5年 1組 (担任: E)	E	E	E	E	推進	E	専科	E	E	専科	E	E	E
壬生小 5年 1組 (担任: F)	F	F	専科	F	推進	F	F	専科	F	専科	F	F	F

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
八重小 6-1	26	A				0	19.6	19.6
八重小 5-1	21	B				0	20.9	20.9
八重東小 6-1	16	C				0	22.6	22.6
八重東小 5-1	13	D				0	22.6	22.6
壬生小 6-1	15	E				0	19.4	19.4
壬生小 5-1	23	F				0	19.4	19.4

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	〈成果〉
<p>① 授業の質の向上(理科的なものの見方や思考力を育てる授業の展開)</p>	<p>① ・前期の反省から後期は、「なんでそうなるの？」をキーワードに問答を意識的に取り入れ、各章や単元のまとめを一步深めることや、科学的根拠への興味関心を刺激することができた。</p> <p>・同じ単元(内容)を3校で実施することで、短期間でPDCAサイクルが機能し、授業改善と教材づくりが効率的であった。</p> <p>・教科担任制のアンケート結果として「授業が楽しみ」の肯定的評価が、第1回84.9%から第2回94.6%で増加し、「勉強の内容がよく分かった」の肯定的評価が、第1回90.2%から第2回92.7%と増加した。</p>
<p>② 児童の多面的理解(児童が様々な能力や個性を伸長することへの支援)</p>	<p>② ・1学期は、授業のみの勤務校があり、生徒理解等の課題として上げていたが、2学期以降は授業をする全ての学校で終日勤務形態を整えていただいた。そのことで各校での生徒の実態把握や担任との連携がスムーズになり、かつ各学校の教育方針等を肌で感じ取ることができ指導上有効であった。</p> <p>・担任と異なる視点で声掛けが行え、児童への多面的な理解が進み、児童の主体的な言動を引き出すことに繋がっている。</p>
<p>③ 小・中学校の円滑な接続</p>	<p>③ ・これまでの中学校5年間、高校36年間の勤務経験を基に、各単元において系統性を踏まえて指導できている。</p>
<p>④ 教師の負担軽減</p>	<p>④ ・実験観察の準備から実施までを一手に担うことで、担任の負担軽減につながっている。</p>
<p>⑤ その他</p>	<p>⑤ ・各校の実験観察道具の違いが、指導者としての発想力・実践力の向上に役立ち、ひいてはそれが指導上有効に働いた。</p> <p>・管理職の配慮で、3校の実験・観察用具を相互に補うことができ、効果的な実験観察ができた。また他校から借りてきた道具を使うことで、児童に各器具を大切に扱う気持ちを培うことができた。</p> <p>・理科指導に特化し教材研究が焦点化できたため、5・6年理科の通年分の授業プリントを作成することができた。今後も活用していく。</p>

〈課題〉	〈対策〉
<p>① 授業の質の向上</p> <p>・標準学力調査の結果から、児童が主体的に学習に取り組んでいる意識が低いことが分かった。</p> <p>・他校の理科担当同士での情報交換が少なく、理科的な視点からの改善への手立てに課題を残した。</p>	<p>① ・児童に「予想させる」、「計画させる」、「考えさせる」場面や、「教え合う」、「説明する」等協働的作業を取り入れる。</p> <p>・理科教育会・各種研修等を通して情報交換に努める。</p>
<p>② 多面的な児童理解</p> <p>・児童に関わる教員が増えたことにより、多面的な児童理解につながった。一方で、推進教員が兼務していることで、各校の教員との連携の時間を計画的にもつことが十分でなかった。</p>	<p>② ・空き時間には各学級の授業の様子を見回ったり支援を行ったりし、児童理解や人間関係づくりができる時間を設けている。さらに連携を強化できるようにしたい。</p>
<p>③ 小・中学校の円滑な接続</p> <p>・教科担任制のアンケートの結果「中学校で学ぶことの不安」に対する否定的な回答が、減りはしたものの第2回で15.5%存在している。</p>	<p>③ ・中学校で学ぶ内容に触れるとともに、理科の楽しさを伝えていきたい。</p>
<p>④ 教師の負担軽減</p> <p>・推進教員は兼務校がある関係で、学校行事や分掌等に十分に時間を割くことができなかった。</p>	<p>④ ・短時間で効率的に各校の教員との連携が取れるよう、メモやノートの活用などの工夫を行う。</p>